

DO YOUR BEST

介護福祉士

CONGRATULATIONS



2019.10 発行
一般社団法人
福島県介護福祉士会
文責 小山田 米子

【会報発行200号を記念して】

福島県介護福祉士会が設立してから発行されました会報NO.8 1994年1月1日発行が前会長の本田陽子様から届きました。「21世紀に求められる福祉そして人材」を聞いての投稿、平成5年度総会のお知らせ、第6回介護福祉士国家試験案内が掲載されていました。

今回2019年10月で200号の会報発行となりました事は、会員皆様のご支援の賜ものです。感謝申し上げます。人から人への繋がりでこのような偉大なことが達成できました。

今後も引き続き会の事業運営にご支援ご協力頂きまして継続して行きたいと思っております。



継続は力なり



【台風19号の災害対策について】

日本介護福祉士会 会長 石本 淳也

今回の台風による甚大な被害に際し、心よりお見舞い申し上げます。

報道を拝見すると、広域且つ深刻な被害に胸が痛みます。
まずは、一日も早い日常が戻りますようお願いするとともに
被害の拡大が無いことを願うばかりです。

何かありましたら日介へ情報提供をお願い申し上げます。

福島県広域災害福祉支援ネットワーク協議会より、福島県
災害派遣福祉チームについて派遣の調整を行って行くと、
連絡を受け、会としても活動支援を行って行く方針です。



事務所近くの笹原川が氾濫した様子です。



FUKUSHIMA



一般社団法人 福島県介護福祉士会

〒963-0108 福島県郡山市笹川一丁目184-29 クレストハイツ184 102号室

FAX 024-943-1848 E-Mail jaccw_fukushima@ybb.ne.jp

ホームページ <http://www7b.ne.jp/~jaccw-fukushima/>

【新任介護職員研修に参加して】

県南方部 近内 綾美

福島県社会福祉事業団が運営する障害者支援施設福島県けやき荘、かしわ荘、かえで荘が毎年合同で研修会を開催しております。

私たちは日頃、知的障がいを中心とする方々の生活支援をしており、今年度の研修を企画するに当たって、正しい言葉遣いや挨拶が良好なコミュニケーション、関係づくりに影響を与え、チームワークが高まると円滑に仕事が進んだり、より良いサービスの提供に繋がる。権利擁護の観点からも接遇が重要であるとの認識から、介護職として必要な接遇の知識やスキルを学び、サービスの質の向上につなげていきたいと考え、「接遇」をテーマとした研修会を依頼しました。

聴講の感想として、日頃から身だしなみや表情、挨拶、言葉遣い等については気を付けているつもりでも、相手の捉え方や相手が自分に抱く印象は人それぞれ違い、「相手は自分の鏡」という言葉があるように、「印象が良い」、「印象が悪い」の判断は相手の表情や態度を見れば分かってしまうことを改めて感じた。

忙しい時こそ、笑顔で対応し、心に届く挨拶を行い、日々利用者や職員同士がコミュニケーションを図り、良い雰囲気を作ったり良好な人間関係を築けるよう努力していきたい。また、相手に寄り添い、安心感や好印象を与え、信頼を得られるような支援者になりたいと感じる研修でした。



【福祉・介護の仕事再就職支援事業】

県北方部 五十嵐 稔

福島県介護福祉士会県北方部として、10/6に社会医療法人秀公会で開催されました「第21回ヘルスケアフォーラム祭」において福祉・介護の仕事再就職支援事業を実施しました。

今回担当するケアフォーラムあづまでは、施設内の見学会の開催。また、一般の方向けに介護の仕事紹介として、食事・排泄・入浴・アクティビティの紹介用パネルの設置、介護の相談窓口、高齢者の嚥下についてのクイズ、トロミ体験を企画しました。多くの方にブースへと訪問していただき、施設見学希望者はいみじくもありませんでしたが、パネルを見ていただいたり、クイズに参加等から小さい子供からお年寄りまで、様々な年齢層に介護について触れ合う機会をもっていただきました。介護相談窓口においては、日ごろの在宅介護の悩みなどを話される方もおり、終わり際には「話を聞いてもらえたらすっきりしたよ」とスタッフに声をかけてくださる方もいらっしゃいました。今後もこのような活動を通し、福祉・介護へ興味を持ってもらい介護業界の人材確保へと貢献していきたいと思っております。



【ふくしま健康長寿フェスティバルに参加して】

会津方部 坂原 敦

9月28日、会津若松市文化センターで行われた「ふくしま健康長寿フェスティバル」に出展しました。昨年まで郡山市で実施していたイベントですが、今回、初めて会津で開催されるということで、会津方部の皆さんにお手伝いいただきました。

10時からスタートということで、早朝より皆さんに準備をしていただき介護福祉士会のブースを作りました。今回のブースの中身は、インボディ体験、血管年齢測定、握力・背筋力測定、ハンド・フットケアです。

イベントがスタートしたと同時に来場者の方々がたくさん来られ、さまざまな測定を体験されました。中でも血管年齢測定をされる方が多く、順番待ちの列ができていました。フットケアは、遠方から来られた方に喜ばれました。スタートから終了まで、来場者が途切れることなく体験されていました。

再就職支援のチラシやボールペンなどをお配りし、介護への啓蒙活動もできました。

たくさんの医療、福祉の団体がそれぞれブースを出され、各団体特有の体験などを行っていました。また来場者の方の多さに驚いたと同時に、皆さんご自身の健康に興味を持たれていることを実感したイベントでした。



【であいふれあい交流会】

10月17日(木)男女共生センターにて開催しました。

今回は、カップ寿司とフェルトの匂い袋を作りました。

次回は、12月19日、門松作りととん汁です。

参加お待ちしております。

【新任介護職員研修「排泄ケアについて」】

9月24日(火)、新任介護職員研修で、今回は排泄ケアについて講師を派遣しております。

皆様からの講師依頼をお待ちしております。

研修は無料です。

【倫理委員会より】

虐待と身体拘束

倫理



基本の確認となりますが、身体拘束は「虐待」と呼ばれる行為の一つとされています。しかし、身体拘束と表現されると、まだまだ物理的な身体拘束だけを指す言葉として使われている場面がまだまだあります。そのため、身体拘束廃止に向けて進めていくなかで、変なルールを作ってしまうやすい傾向が若干見られます。

ミトン拘束だけど、手袋はOKとか、家族の許可があれば拘束具を使用して良いとか、自宅であれば身体拘束は問題ないとか。身体拘束が虐待行為の一つであると認識するならば、これらのルールがちょっと変であることがはっきりわかんと思います。許される虐待は存在しないのです。これは家族の関係であっても同様です。

高齢者介護の分野だけではなく、虐待と向き合うことは簡単ではありません。非常に大きな課題ではありますが、この問題を安易に正当化し受け入れるのではなく、その一つ一つに対し、介護に関わる一人一人が真摯に向き合う姿勢が必要であると考えます。その中心となるのが、私たち介護福祉士の役割ではないでしょうか。



県内各地で「介護の日」イベントが開催されます。

11月 2日(土)会場 道の駅 あいづ湯川・会津坂下
11月 9日(土)会場 しらかわ介護福祉専門学校
11月10日(日)会場 南相馬市 道の駅
介護福祉士再就職支援、介護相談、介護技術指導
ハンド・フットケア、血管年齢測定、介護擬似体験
一般の皆さんの参加申込をお待ちしております
お問合せ先 一般社団法人福島県介護福祉士会
Tel・Fax 024-983-1843

「介護に関する入門的研修」

これまで介護に関わりがなかった方・介護未経験の方
が介護に関する 基本的知識を身に付け介護の業務に携わる上で知っておくべき基本的な技術を学ぶ
事ができる研修です

白河会場・・・12月 7、8、14、15日
場所 しらかわ介護福祉専門学校
郡山会場・・・2月 1、2、15、16日
場所 国際医療看護福祉専門学校
参加費は無料です
研修終了後に修了証が発行されます
お問合せ先 一般社団法人福島県介護福祉士会
Tel・Fax 024-983-1843



心を癒す草木



秋の安達太良山のご紹介です。

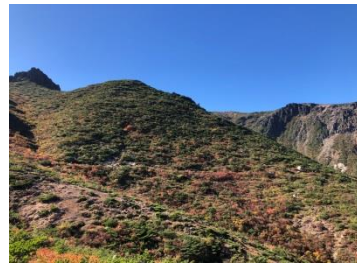
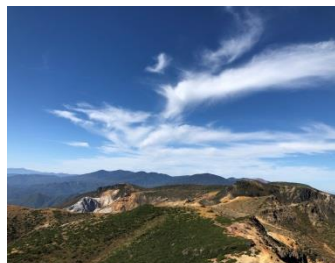
写真は10月初旬の安達太良山です。紅葉の時期には少し早いのですが、私が紹介したいのは、ここに広がる青空です。

安達太良山の空は「ほんとうの空」と言われます。これは、詩人で彫刻家の高村光太郎が、妻、智恵子への想いを記した「智恵子抄」の中の一節にあります。二本松市(旧安達郡)にある酒蔵出身の智恵子は故郷から遠く離れた地に馴染めず、「ほんとうの空が見たい」、そこに広がる空ではなく安達太良山の上に広がる青い空が「ほんとうの空」だと言いました。

私もこの空が好きです。安達太良山の山頂にいかないまでも遠くから、時にはロープウェイで登ってこの景色を観ます。皆さまに便りが届くころには、秋も深まりさらに素晴らしい景色が広がっていると思います。

忙しい日々、立ち止まって懐かしいものや故郷に想いを寄せてみたり、いつもの通勤路であらためて景色を眺めてみたり、そういう何気ない風景も心の拠り所となりますね。

先日の台風19号の影響が続いている地域の皆様、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げ、一日も早い復旧をお祈りしています。



編集後記

紅葉の候、いっきに秋めいて参りました。皆様には、いかがお過ごしでしょうか。

10/12～13にかけての台風19号においては、福島県を始め広域に大きな爪痕を残してしまいました。

ニュースを見るたびに心が痛みます。どうか、皆様の地域においても多くのボランティアの方の力が必要とされています。くれぐれも、体調を崩さない様、一日も早い復旧を願っております。



【次世代の介護福祉士に期待すること・仲間に感謝】



県南方部
本田陽子

介護職が1つとまとまり福島県の介護関係に貢献して今があると思います。陰ながら応援しております。介護職がお手伝いさんと思われ苦勞した時もありましたが、介護保険になり介護福祉士の仕事が認められて来たのは、介護福祉士会の皆さんが介護の現場で働いたことを元に、各地各研修会で講師として指導して頂いたお蔭だと思います。今後はもっと専門家として、認定介護福祉士等で介護職を育て教えていただけることを期待します。



会津方部
佐藤恵二

私が、介護福祉士会に入会したきっかけは、初代会長の三浦会長から「福島県で介護福祉士会を作りたいので協力して欲しい。」との声掛けでした。私自身介護の仕事は、全くの素人でしたので会に入ったことが、今の自分に繋がりました。その後、三浦会長の勧めで、介護専門学校の教員になり3年間、学生と一緒に介護の勉強をすることで、介護の基本を学ぶことが出来ました。現在70歳になりましたが、特別養護老人ホームで施設長補佐の仕事をしており、この年まで介護の仕事ができることは、健康はもちろんですが、介護福祉士会の仲間からいろんなことを教わり、また助けられ、ここまでやれたと思っています。会の仲間に感謝しています。



県北方部
島貫 博子

《福島県介護福祉士会 会報 200号》

＊「福島県介護福祉士会」の会報200号発行、おめでとうございます。

・「福島県介護福祉士会」の設立は平成4年4月18日。

＊会報作りの思い出は、福島市の社会福祉協議会の一室を借りて、印刷していたことです。今は介護支援専門員として活躍している方々、K様、O様には、本当にお世話になりました。当初、県北方部で担当していたこともあり、方部活動は会報作りになっていたかもしれません。中央デイサービスの所長W氏にはいつも最後まで付き合っていておりました。その後、会報作りは方部で順番に担当するようになりました。印刷も白黒からカラーにと変わりました。

～新しい風から DO YOUOR BEST～

社団法人化のときは、400部～500部印刷し、封筒詰めして発送までしたので、今考えるとよくやっていたものだと思います。懐かしい限りです。

・今は、郵送されて来る会報をみるのが楽しみにしております。仕上がるまでの苦勞は大変ですが、これからも、楽しみにしております。



県中方部
生天目 昭夫

「花を支える枝 枝を支える幹 幹を支える根 根はみえねんだな」
これは、書家・書の詩人（いのちの詩人）と称される「相田みつを」氏の作品です。

現在までの会の運営や各種開催の事業、また、大きくは来年開催予定の全国大会に向けての準備など、今までの、そしてこれからの、数多くの皆様のご参加やご努力が、この福島県介護福祉士会という、若木？成木？の育みとなっており、ひいては今後ますますの大樹への成長につながっていくと思われます。

今後益々の会のご活躍を、ご祈念申し上げます。



いわき方部
金成 明美

「この資格を大切にする人 この指と一まれ！」から 25 年を過ぎて 200 号発刊おめでとうございます。福島県介護福祉士会は平成 5 年 4 月 18 日に設立、早くも 25 年と半年を超えています。設立半年前に「県介護福祉士連絡会準備委員会」として、若輩ながら先発する東京都介護福祉士会や当時福島大学教授である田代国次郎先生に指導を仰ぐ日々を送ったことは、今でも私の財産になっています。

さて、これからは Society5.0（超スマート社会）の世界ですから、最先端の IoT や AI、ロボットなどを使いこなしながら、外国人介護労働者や介護業界へ新参入する中高年齢層への指導力が求められると予測しています。大きな社会変化に対応するために必要なのは「介護過程」（介護の PDCA）を常に意識し、管理・指導する能力を身につけていくことだと言えます。

その時代に期待されるニーズを満たせるよう、私自身も含めて常なる自己研鑽を積み上げていくことが、介護福祉士の資格形成やその時々指導いただいた先人への恩返しではないかと思っています。



相双方部
門間 良

- ・人生の先輩に会える職業を経験できたことは、自分の財産だ
- ・農家を継いだ自分に母は、「農家は自分でやりくりが出来る仕事。井の中の蛙にならないように、外へ出て勉強なさい」と言う人だった。
- ・相双地区の介護技術や研修をやる場所がなく苦勞した。今、こうやって頑張ってやって頂けることが嬉しい。
- ・人と人の関わりが財産。